

Book Review

評者：小野美穂 香川県立保健医療大学教授

看護を教える人のための ルーブリック導入講座

著：北川 明／発行：医学書院
定価：2970円（本体2700円＋税10%）



ルーブリック作成から自らの教育を突き詰めて考えよう

本書は、これからルーブリックを作成しようとして
いる教員はもちろん、私のように十分とはいえない知
識のもと、“なんちゃってルーブリック”を作り、不安
を感じていた者にとっての救世主、お助け本である。
難しい内容もかみくだいて説明しており、とても読み
やすく、なるほど納得、やってみようと思わせてくれた。

看護学教育の評価、特に臨地実習における看護実践
の評価は非常に難しい。学生が受け持つ患者の性格や
状態・状況によって関わり方も実施するケアも異なり、
その結果（出来栄）が左右されることは往々にしてあ
る。また複数の教員が指導に入る場合の評価点にばら
つきが発生し、頭を悩ますこともしばしばだ。その妥
当性と信頼性について、大学の場合、こと研究におい
ては厳しく突き詰めるが、授業評価についてのそれ
をも果たして十分考えてきたか、反省させられた。著者
が訴えるように、「ルーブリックを作成することは、教
師のなかにある理想とする学生像を具体化し、言語化
していくことであり教育を突き詰めて考えていくこ
と」（本書p.v）だと、本書を通して私は真に実感した。

本書には、理論と実例を交えた詳しい作成方法やポ
イントに加え、ルーブリックを効果的に活用するた
めの著者の工夫も紹介されているので、ぜひ参考にされ
たい。評価が済んだら終わりではなく、看護過程を展
開していくように、作成したルーブリックをチェック

し、さらにブラッシュアップさせていく。また、評価
者が何を評価しようとしているのかが学生に分かる
「明確性」も加わらなければ、良いルーブリックとはい
えない。ルーブリックは評価ツールであるだけでなく、
学生の学びを促進させる効果があり、学習の途中段階
で学生にフィードバックすることによって、学びの当
事者が自己評価しながら次のステップに進んでいける
指標になり得る。その成長を促すための教育ツールと
しての活用もあることに気づかされ、ハッとした。私
の場合、実習後に学生との評価面談を行い、フィード
バックしながら評価をつけているため、学生との共同
作業をしているつもりだったが、これは最終評価の
フィードバックにすぎず、そのルーブリックが学生に
とって理解しやすいものであったか、評価指標に学生
との認識のズレはないか、学びの成長の助けになっ
たかなどを学生に確認すること、そして、その声を生か
し、ルーブリックを学生にとってよりよいものにして
いくという大事な視点に欠けていたことにも気づいた。

いずれにしても、まず、自身の授業の教育目標を振
り返り、学生に対してどのような成長を期待している
のかについて、自分と向き合いじっくり考えること、
その学生像を具体化、言語化していくこと、そして、
学生の教育効果は教員の責任であるという認識のもと、
私も、自らの教育を問い直すことから始めようと思う。